

特集
1

・東京の無電柱化

特集
2

・第18回 都立庭園 紅葉めぐりスタンプラリー
・旧古河庭園 小石川後楽園
・浜離宮恩賜庭園 六義園

特別
特集

・橋の架け替えのお話 ～日野橋編～



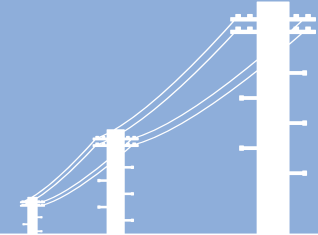
令和6年度無電柱化の日フォトコンテスト都知事賞作品
無電柱化してよかった風景(上)、無電柱化が望まれる風景(下)



小石川後楽園 紅葉と雪吊り

東京の無電柱化

毎年11月10日は
「無電柱化の日」です



どうして無電柱化が必要なの?

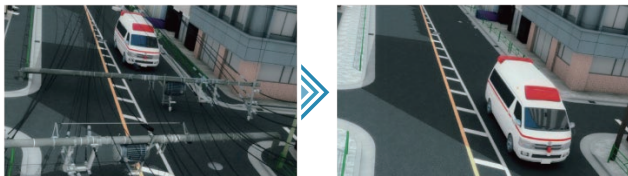
東京では、戦後、都市の発展に伴い、多くの電柱が建てられてきました。その結果、電線が張り巡らされ、電柱が立ち並び、都市景観を損ねるだけでなく、歩行者や車いすの通行の妨げになっています。また、災害時に電柱が倒れ、道路が塞がってしまう恐れがあります。首都直下地震が発生した場合にも甚大な被害が想定されることから、無電柱化の重要性が一層高まっています。



令和元年台風15号の影響による電柱倒壊(新島村 若郷地区)

無電柱化の目的は?

災害時、いざという時に



災害時に電柱が倒れて救急車や消防車の通行を妨げることがなくなります。また、電気や電話などのライフラインも壊れにくくなります。

歩きやすく安全な歩道に



電柱がなくなること歩道は歩きやすくなり、ベビーカーや車いすなども安全に通行できます。

スッキリした東京の空へ



視線をさえぎる電線や電柱がなくなり、美しい街が生まれます。

都道の無電柱化はどこまで進んでいるの?

東京都では昭和61年度から計画的に無電柱化を進めています。計画幅員で完成した都道における地中化率は、令和6年度末現在で区部は68%、多摩地域は23%、都道全体では48%となり、整備済延長は1121kmとなっています。

※地中化率:整備対象延長に対する、電線共同溝本体が整備された延長の比率をいう。

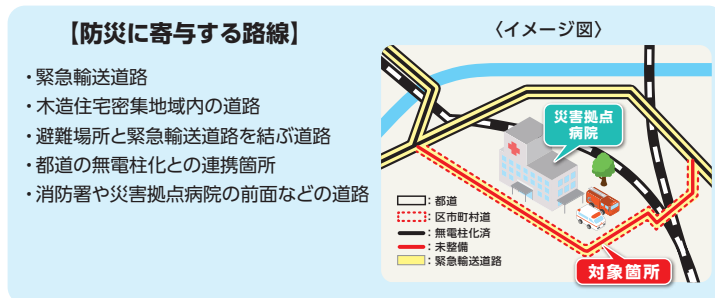
無電柱化はどのようなところで進めているの?

都道

重点的に整備するエリアを、概ね整備が完了したセンター・コア・エリアの内側から環状七号線の内側に拡大し、整備を進めています。また、災害時の避難や救急活動、物資輸送を担い、行政機関の本庁舎や重要港湾、空港などを連絡する第一次緊急輸送道路を重点的に整備します。

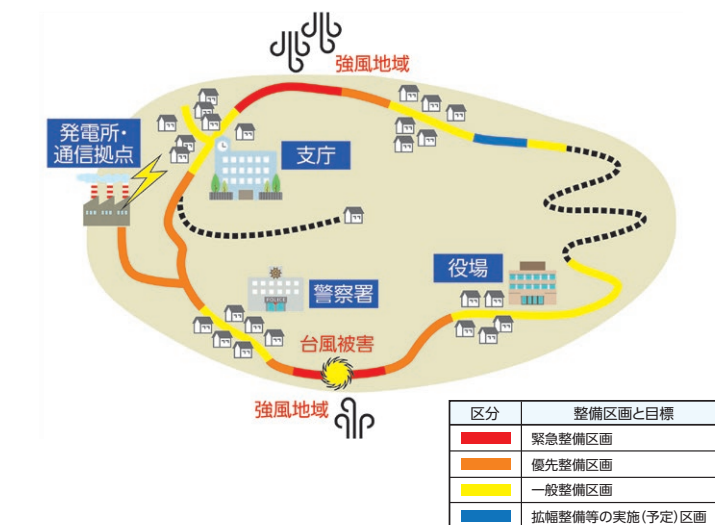
区市町村道

センター・コア・エリア内や主要駅及び主要観光地周辺等に加え、「防災に寄与する路線」や狭隘な道路等で、財政支援と技術支援を行っています。



島しょ地域

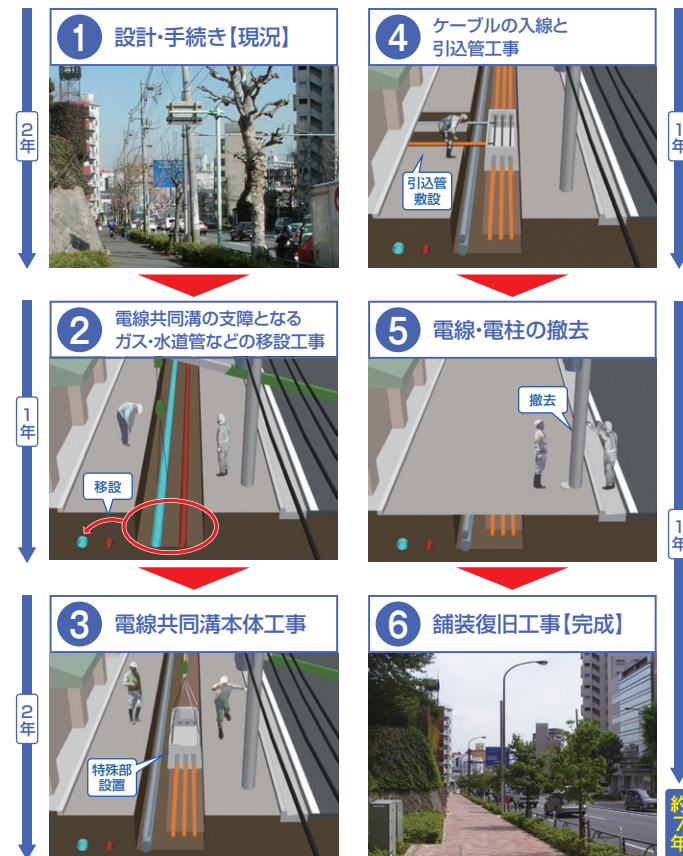
東京の島しょ地域では、これまでに幾度となく台風などの自然災害に見舞われてきたため、都道や港、空港の整備目標や立地特性を考慮し整備区間を定め、2030年代に向けて整備する都道や港・空港の具体的な箇所などを整備計画として示しました。



また、「電柱のない島」の実現に向け、先行整備する島として利島及び御蔵島を対象とした「利島・御蔵島無電柱化整備計画～電柱のない島に向けて～」を策定し、事業を進めています。

どうやって無電柱化しているの?

電線共同溝の整備にあたっては、水道管やガス管などが埋設されている地下空間に新たに電線共同溝を埋設するため、標準的な施工単位(道路延長約400m)の整備に一般的に約7年程度かかります。



第5回
「無電柱化の日」
フォトコンテスト
入賞作品発表

令和7年11月10日(月) 午後1時に東京都庁にて、入賞者の表彰を行う予定です。なお、本イベントの様子は東京都公式動画チャンネル「東京動画」でライブ配信する予定です。

問合せ先
道路管理部安全施設課無電柱化推進担当
TEL: 03-5320-5305

ぜひご覧ください!

無電柱化ファミリーイベントを開催しました!

8月21日(木)に東京電力総合研修センターにてファミリーイベントを開催しました!当日は多くのお子様が来場され、無電柱化設備の実物大モデルの見学などを通して、無電柱化の仕組みをより理解してもらいました!



マイマイから小笠原の今をのぞく

井の頭自然文化園 飼育展示係 伊藤達也

東京から南へ約1000km離れた小笠原諸島。世界自然遺産にも登録されたこの島々には、約100種類ものマイマイ(カタツムリ)が生息しています。はるか昔、偶然この島にたどり着いたマイマイの祖先が、豊かな環境の中で長い時間をかけ、多様な種に進化してきました。生き物の進化の過程を垣間見ることができる小笠原のマイマイですが、人の往来に紛れて小笠原に侵入した外来種(ネズミやプラナリア)によって捕食され、現在はその多くが絶滅の危機に瀕しています。

小笠原で行われている保全活動の一環として、都立動物園・水族園では、2017年から小笠原固有のマイマイの飼育を開始しました。現在はカタマイマイ属4種の飼育を行い、現地飼育施設のバックアップを担うとともに、マイマイの生態を調査する試験や、展示を通した来園者への普及活動を行っています。

現地では外来種の駆除を進めると同時に、飼育下で増やしたマイマイを本来の生息地にかえす試みも進められています。今後、都立動物園・水族園でも、これまでの活動に加え、飼育下繁殖個体の野生復帰に向けて活動を進めていく予定です。

動きがゆっくりで、また小さく目立たない生き物ですが、都立動物園・水族園のマイマイから小笠原の今をのぞいてみませんか?

水族園の“かお”

葛西臨海水族園
メガネモチノウオ



メガネモチノウオの若魚
2025年8月29日撮影

ナポレオンフィッシュとも呼ばれ、頭部が大きく張りだした姿が有名な魚ですが、「サンゴ礁の海」水槽で展示中の個体は若魚で、まだその特徴はありません。「世界の海」エリア「南シナ海」水槽には成魚がいるので、見比べてみてくださいね。